

臨床疼痛学

(Study of Clinical Pain)

【責任者/担当者】

〔ペインクリニック部〕 高雄 由美子 教授

【担当者】

〔ペインクリニック部〕 前田 倫 非常勤講師、助永 憲比古 非常勤講師、
寒 重之 非常勤講師、細越 寛樹 非常勤講師

〔麻酔科学・疼痛制御科学〕 廣瀬 宗孝 主任教授、石本 大輔 助教

〔整形外科学〕 木島 和也 助教

〔解剖学神経科学部門〕 戴 毅 主任教授

〔ささやま医療センター〕 藤岡 宏幸 病院長

【目的】

臓器別学修では皮膚、運動器、内臓など様々な臓器の病変や損傷により発生する症状を学び、痛みはその中の症状の1つにすぎない。このような痛みは原因を治療すれば痛みも消える。ところが明らかな原因がないにも関わらず痛みが持続する慢性疼痛をもつ患者も多い。この科目では、学生が痛みの分類を理解し、慢性疼痛の病態と治療について知ることが目標である。

【科目キーワード】

「痛み(Pain)」「急性疼痛(Acute pain)」「慢性疼痛(Chronic pain)」「侵害受容性疼痛(Nociceptive pain)」「神経障害性疼痛(Neuropathic pain)」「全人的苦痛(Total pain)」

【到達目標(アウトカム)】

- 急性疼痛と慢性疼痛の違いを説明できる。
- 侵害受容性疼痛と神経障害性疼痛の違いを説明できる。
- 区域麻酔で用いる神経ブロックや麻酔法を列挙できる。
- 痛みの集学的治療の対象疾患を列挙できる。
- 緩和医療における全人的苦痛(total pain)を説明できる。
- がん性疼痛コントロールの適応、注意点を説明できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・他者を理解し、互いの立場を尊重した人間関係を構築して、学内の人々や団体と関わることができる。
- ・医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなるチーム医療を修得している。
- ・周囲の人々と適切なコミュニケーションをとることができる。
- ・様々な病気や障がいを持つ患者の気持ちや背景を理解している。
- ・難治性の痛みを含め、患者の苦痛を理解できる。

【概要ならびに履修方法】

講義を行う。

【準備学修ならびに事後学修に要する時間】

前日までに該当する部分の講義冊子に1時間程度目を通すこと。

【成績の評価方法・基準】

各講義内容に沿った筆記試験(80%)、出席点数を加味。

【学生への助言】

特になし

【フィードバック方針】

学生毎に個別に答案を開示する。

【オフィスアワー】

特になし

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

「痛みと鎮痛の基礎知識(増補改訂新版)」 小山的なつ 著(技術評論社)2016年

「慢性疼痛治療ガイドライン」慢性疼痛治療ガイドライン作成ワーキンググループ 編

(真興交易(株)医書出版部)2021年

【参考書】

特になし

【連絡先】

1号館 5階 ペインクリニック部 医局 (内線 6819)